

健康支援

1 概要及び実施状況

1] 特定保健指導

特定保健指導が開始された平成20年4月より、標準的な健診・保健指導プログラムに基づき、実施主体である医療保険者からの委託を受け、「動機づけ支援」及び「積極的支援」を実施している。

今年度は26団体から委託を受け、1,610人（市町で初回面接を実施した13人を含む）の特定保健指導を実施した。

表1 特定保健指導実施状況

	実施者数	終了者数		途中終了者数		支援継続者数(%)	
		評価終了(%)	督促終了*1(%)	脱落*2(%)	資格喪失*3(%)		
動機づけ支援	男	709	592 (83.5)	98 (13.8)	14 (2.0)	2 (0.3)	3 (0.4)
	女	421	354 (84.1)	60 (14.3)	5 (1.2)	1 (0.2)	1 (0.2)
積極的支援	男	393	316 (80.4)	0 (0.0)	63 (16.0)	6 (1.5)	8 (2.0)
	女	87	64 (73.6)	0 (0.0)	22 (25.3)	1 (1.1)	0 (0.0)
総数	男	1,102	908 (82.4)	98 (8.9)	77 (7.0)	8 (0.7)	11 (1.0)
	女	508	418 (82.3)	60 (11.8)	27 (5.3)	2 (0.4)	1 (0.2)

表2 動機づけ支援実施状況

	実施者数	終了者数		途中終了者数		支援継続者数(%)	
		評価終了(%)	督促終了*1(%)	脱落*2(%)	資格喪失*3(%)		
国保	男	440	381 (86.6)	41 (9.3)	14 (3.2)	1 (0.2)	3 (0.7)
	女	298	265 (88.9)	26 (8.7)	5 (1.7)	1 (0.3)	1 (0.3)
社保	男	269	211 (78.4)	57 (21.2)	0 (0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)
	女	123	89 (72.4)	34 (27.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

表3 積極的支援実施状況

	実施者数	終了者数		途中終了者数		支援継続者数(%)	
		評価終了(%)	督促終了*1(%)	脱落*2(%)	資格喪失*3(%)		
国保	男	172	130 (75.6)	0 (0.0)	41 (23.8)	1 (0.6)	0 (0.0)
	女	54	38 (70.4)	0 (0.0)	15 (27.8)	1 (1.9)	0 (0.0)
社保	男	221	186 (84.2)	0 (0.0)	22 (10.0)	5 (2.3)	8 (3.6)
	女	33	26 (78.8)	0 (0.0)	7 (21.2)	0 (0.0)	0 (0.0)

*1督促終了とは、半年後の評価ができず、度重なる督促をもって終了した者

*2脱落とは、最終利用日から未利用のまま2ヶ月経過した者や支援途中で服薬開始となった者等

*3資格喪失とは、退職等により保険が変更になった者

2] 専門職の派遣、健康教育等の受託

市町等からの委託を受け、8団体に対して209日派遣した。また、健康教育等は11団体から依頼を受け、18日実施した。その他、健康に関する啓発イベントに協力した。

表4 実施状況

		実施 団体数	実施回数	職種別派遣回数		
				保健師	管理栄養士	健康運動 指導士
専門職の派遣	地域	6	205	183	23	60
	職域	2	4	4	0	0
	学域	0	-	-	-	-
健康教育の 受託	地域	1	1	1	0	0
	職域	9	16	20	6	6
	学域	1	1	0	0	2
啓発イベント		1	1	1	0	0

3] 健診データ等の統計・解析の実施

地域・職域診断サービスシステムを用いた健診結果報告書を26団体に提供した。また、そのうち18団体に対して個別に結果説明を実施した。

表5 地域・職域診断サービス健診結果報告書件数

	作成団体数	結果説明実施団体数
地域	14	10
職域	12	8
総数	26	18

4] 至急精検対象者への受診勧奨

集団健診受診後、至急の精密検査が必要な方に対し、受診団体の保健師や衛生管理者等と連絡体制をとっている。平成28年度は延べ534人が対象となり、がん検診では200人が対象となった。

表6 至急精検連絡件数

	胃がん	胸部*	子宮頸がん	乳がん	前立腺がん	その他**	総数
地域	21	79	21	65	1	54	241
職域	9	20	0	7	0	34	70
学域	-	2	-	-	-	221	223
総数	30	101	21	72	1	309	534

*喀痰、結核検診25名を含む

**血圧・心電図・血液など（学域健診は腎臓検診を含む）

5] 発見がん追跡調査

平成27年度に集団健診や人間ドックを受け、精密検査が必要になった受診者のうち、市町や医療機関から送付された精密検査結果連絡票に、「がん」または「がんの疑い」と診断された方について、確定診断の状況（病理、組織、形態学的）の調査を実施した。なお、調査内容は各がん取り扱い規約に基づき実施した。

表7 集団検診

	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん	前立腺がん
調査件数	93	100	162	84	129	491
回収件数	89	96	152	84	126	473
回収率(%)	(95.7)	(96.0)	(93.8)	(100.0)	(97.7)	(96.3)

表8 人間ドック

	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	子宮体がん	乳がん	前立腺がん	腹部超音波	食道がん	甲状腺がん
調査件数	3	9	7	0	1	10	19	2	3	0
回収件数	2	8	4	0	1	10	19	2	2	0
回収率(%)	(66.7)	(88.9)	(57.1)	—	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(66.7)	—

6] 健康相談センター

平成28年度は208人から246件の相談があった。平成27年度同様、「検査所見の説明」と「医療機関の紹介」についての相談が多かった。

表9 相談の詳細内容と件数

	件数（延べ）
検査所見の説明	82
医療機関紹介	60
検査内容	22
生活習慣アドバイス	11
その他	71
計	246

7] 東電福島第一原発緊急作業従事者に対する疫学的研究への協力

福島第一原発において緊急作業に従事した作業員に対し、長期にわたる健康影響を明らかにする目的で平成26年度から公益財団法人放射線影響研究所が疫学的研究を開始した（厚生労働省補助事業）。当事業団では、県内対象者のうち52名に健康診査を実施した。